

浄土

monthly JODO

7/8

2018
July
August



貧乏董

三宅政吉

グラフィック・デザイナー



高さ 65 ミリ、口径 80 ミリ。高台径 51 ミリ。口縁に金（真鍮だろう）で繕いが施されている（写真下、上部中央）。それ以外は状態もよく、きれいに磨き上げられている。図柄は鳥、岬の樹木と住居。海には帆船が浮かんでいる。人物は描かれていない。見込み中央にはお寺の絵がある

一昨年の秋、不注意から右の第三中足骨を骨折してしまった。医者からギプスを当てられ、一か月の歩行禁止を言い渡された。松葉杖がうまく使えないので区役所から無料の車椅子を借りての通院である。骨折は医者が言った通り一か月で治癒したが、その間に両足の筋力の低下、腰痛といった症状が出て、今度は近所の整骨院でのリハビリとなった。これも一か月である。なんとか杖に頼らず歩けるようになったところ、ツレアイが、リハビリの仕上げに温泉に行こうと言う。二か月にわたる治療でそんな経済的余裕はないと言うと、ツレアイは快気祝いに私が面倒みることである。わたしなどよりよっぽど稼ぎがある。

Y商店は宮ノ下駅から坂道を下ったところにある。入ってすぐの陳列台に、この連載で取り上げた、山水の皿と同じものが数枚重ねて置いてある。思わず手にとって眺めていたら、奥から店主とおぼしき男が血相を変えて駆け寄り、お客さん、勝手に触らないでください、触る時は声をかけてくださいと言う。だったら、ガラスケースにでも入れておけばいいだろうと思ったが、入店早々ケンカしても始まらない。いちばん奥の陳列台に、写真の器は置かれていた。蕎麦猪口にしては小さいし、杯には大きい。ぐい呑かもしれない。店主にこれは何に使っていたものだろうと聞いてみたがよくわからないという。酒を呑むのにちよいどいいかもと言うと、店主はこんな大きなもので呑みますか、と呆れた顔をする。

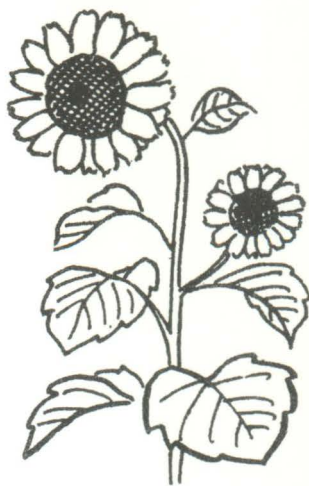
描かれた山水と、青みを帯びた地肌の透明な白さに惹かれておくらですかと尋ねた。これは、江戸中期のものでなかなかいい物ですよ、四千円でいかがですかときた。ちよっと高いなと考え込んでいると、ツレアイが快気祝いに買ってくれろという。ありがたいことである。

口縁に欠けがあったのか、金で繕ってある。それもこの冷たい感じの器に、ほんのすこし温かみを添えているようで好ましい。毎日晩飯を作りながら安い日本酒を呑む時は、欠かさずこの器を使っている。安い酒もすこしはおいしくなるようだ。もちろんツレアイに感謝しながらである。

浄土

2018/7・8月号 目次

世界はもっと豊かだし 人はもっと優しい	森達也	2
連載 響流十方	林田康順	10
連載 江戸の川を歩く ②	森 清鑑	14
連載小説 渡辺海旭 ⑧	前田和男	22
連載 マンガ さっちゃんはネッ	かまちよしろう	31
編集後記		32



表紙題字＝中村康隆元浄土門主
表紙写真＝鬼海弘雄
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

法然上人鑽仰会主催 平成二十九年

平成二十九年六月二十二日

於 増上寺慈雲閣

森達也氏講演会

世界

はもっと

豊か
だし

人

はもっと

優しい

その二

集団化は今も進んでいます。今、厳罰化を例に挙げましたが、先ほど言いました国内の異物を探したい。集団の中の異物を探して、皆んなでこれを排除したいといった風潮があります。それでどんな現象が起きてきているかと言えば、例えば、ヘイトスピーチがあります。日本国内に住む、日本国籍は持っているけれども出自が違う人たち、彼らを追い出せ、そうしたことを往来で平気で言う人が増えてきました。

いわゆる在特会、そうしたネトウヨ（ネット右翼の意）という人たちも、彼らも集団化なんです。少数ですが、集団でまとまります。一人でヘイトスピーチをやる人はいません。絶対にデモ隊でやります。集団になる。特に、ネットがありますから、ネットの中で彼らは多数派のような気分になってしまいます。

あるいは、敵を探したくなる。やはりこの十年、二十年の傾向です。中国、韓国、北朝鮮、隣近所が皆んな敵に思えてくる。そうした傾向がとても強くなっています。

あるいは、強いリーダーが欲しくなる。まさに今現在がそうです。外国に対して強い言葉を発するリーダーを皆が求め始める。これは今、世界的な傾向です。

トランプしかり、プーチンしかり、習近平しかり、トルコのエルドアン、フィリピンのドゥテルテ、国民が皆、そういう強いリーダーを求め始めています。

当然ながら、政治家もそれは察知しますから、強く振る舞います。強く振る舞って、あとに引けなくなる。あとに引いたら支持率に影響しますから。そうした傾向はどんどん加速している。

そして、セキュリティ意識、これはとても強くなっています。監視カメラ、さっきちらりと触れましたが、恐らく日本は今、人口比で台数は世界一です。

数年前までイギリスでしたが、イギリスはキャメロン政権のときに、費用対効果でいったら監視カメラはほとんど効果がないということで、設置をやめました。日本はどんどん増殖しています。

あとは民間警備です。テレビCMを見ていて、思いませんか？ セキュリティ関連会社のCMがあんなに増えたのは、この十年、二十年です。彼らは全部、業績が右肩上がりです。

次に、警察官が大量に増えています。でも実際、やることはないのです。だから、昼間から彼らはこっそり公道でスピード違反取り締まりとかやっていますが、働き場所がない。では、どうするか。共謀罪が通りました。一般人を監視するわけですから、彼らもいっぱい働けます。こうした状況にどんどんなっています。

不安や恐怖を持ったとき、つまり、セキュリティ意識が国外に流れ出して、国境をまたいで、ほかの国が全部敵になってしまふ。何時あいつらが攻めてくるかわからない、と。

例えば一つ。北朝鮮が一番リアルな、多分今の日本人からすると敵国になるのでしょうか、ミサイル、自民党はついにテレビCMをこれから始めるらしいです。ミサイルが飛んできたときのための心得みたいなことでしょう。

ただ、いろいろなメディアがミサイルについては取り上げていますが、その北朝鮮の弾道ミサイルが、どれほど威力があるのかほとんど触れません。誰か知っている方、います？ 教えている大学で学生たちに聞きました。「君たちも随分怯えているけれども、この教室に、北朝鮮の火星二号でもいいし、ノドンでもいいが、落ちてきたら、どれほどの被害になると思う？」と聞きました。

大学は御茶ノ水にあるのですが、「千代田区が火の海になります」とか、「このキャンパスは壊滅します」とか、皆んなが言うので、「いや、ここにもし落ちてきたら」、ちようどこのくらいの大きさの教室です。「この教室がまあ半壊するくらいだろう」と言うのと、皆んな、「え?」と言いました。

でも、実際そうなんです。弾道ミサイルは通常火薬ですから、搭載できるのは五百キロが限界です。五百キロの火薬の破壊量というのはその程度、小さなビルが、三階、四階建てのビルが半壊するくらいです。

ところが、日本中が「もし北朝鮮のミサイルが落ちてきたら、もう東京は火の海になる」とか、そう思い込んでしまっています。

もちろん、北朝鮮が万が一撃ってくるのであれば、一発ということはありません。うし、さらに言えば、たとえこの程度の被害とはいえ、人がいたら、いっぱい死にます。だから、もちろん備えることは大事です。でも、どの程度の破壊力かもわからない備えなんて、何の意味があるのですか。

つまり、「この程度の破壊力しかない」と言ったら、水を差すわけです。先ほど言ったように、メディアは不安や恐怖をあおります。政治家も同じです。特に今の政権はそうです。

不安や恐怖をあおることで支持率を上げてきました。法案を通してきました。だから、いかに北朝鮮のミサイルが危ないかと言いたいわけです。だから、余りそこで、「せいぜい破壊力はこのくらいですよ」とは言いたくありません。

メディアと政治の思惑が一緒になってしまいました。その結果として、国民は不安と恐

怖ばかりが強くなります。敵を探したくなる。

戦争はなぜ起きるのか。侵略戦争という言葉があります。十九世紀であれば、侵略戦争はあったと思います。つまり、他国の領土、資源、労働力を奪うための戦争。十九世紀はまだ植民地主義もあつたし、帝国主義もありました。

では、今はどうか。防衛戦争です。自衛戦争です。守るための戦争です。全部そうなんです。ベトナム戦争もアメリカからすれば、共産主義から世界を守るため。イラク戦争のときに、アメリカは何と言ったか。アルカイダの恐怖から世界を守るため。では、かつて日本はなぜアメリカに宣戦布告したのか。アジアを欧米列強の植民地主義から守るため。全部守るためです。

でも、結果として、お互いを守るためと言い合いながら手を出して、守るべき人を殺してしまつて、誰が悪かったかと嘆いているという状況です。

よく、なぜ人間は戦争をやめられないのか、人間には闘争本能があるからだと言う人がいますが、僕は違うと思います。

これはアメリカが調べているのです。かつて米軍が第二次世界大戦のときに、前線の兵士の発砲率を調べたのです。そうしたら、たしか実際に引き金を引いたのは一割五分だったのです。

実際に相手に向かって、実弾を撃った人は一割五分。残りは皆んな撃つたふりをしていてたということがわかったのです。つまり、人間は人を簡単に殺せないということです。ものすごい抵抗が働きます。

でも、このままではアメリカは世界最強の軍隊を持ってない。そこで、アメリカはどうし

たか。訓練方法を変えました。例えば、それまで射撃の訓練は同心円状の的を使っていたのですが、ここに人の顔写真を張ります。これを撃つことで、人を殺すことの抵抗感を下げます。

実は、これは日本軍の初年兵教育にヒントを得たという説もあります。かつて帝国陸軍は、銃剣でこれを突き刺すという訓練をやっていました。

アメリカのこの訓練が功を奏するのがベトナム戦争です。前線の発砲率は大いに上がりました。でも、その結果、どうなったか。米国の兵士たちが壊れてしまったのです。

だから、あの時期の映画、ハリウッドでは、「イージーライダー」とか「帰郷」とか「タクシードライバー」とか、たくさん映画がありました。全部共通するテーマは、ベトナムから帰ってきた兵士が壊れてしまったという事実です。「ランボー」もそうですね。つまり、人は人を殺せないのです。殺すためには何かを壊すしかない。

これはアメリカで大きな社会問題になって、アメリカは戦争の方法を変えます。どう変えたか。殺す実感のないままに殺せる兵器の開発です。その結果が湾岸戦争です。

パソコンの画面を見ながら、マウスでクリックして、ゲームのように爆弾を、ミサイルを落とす。この結果として、アメリカは大いに成果を上げます。

ところが、イラク戦争でまた失敗をするのです。バグダッドに地上戦を展開してしまつたのです。そこで激しい抵抗に遭って、また米軍兵士が壊れ始めます。だから、また今アメリカで社会問題になっています。帰還兵たちが社会に復帰できないという。

闘争本能ももちろんある。でも逆に、人を殺したくないという本能もあります。そちらのほうが強いです。

では、なぜ戦争は終わらないのか。僕は自衛の本能と思います。防衛本能です。人間はそれが強いからこそ、守るために人を殺す。これが大義になってしまふのです。

これはお互いにそうなんです。お互いに守るために、「あつちが攻めてくる」と言い合いながら、手を出す。二十世紀の戦争はほとんどこうやって起きています。

では、どうすればいいのか。どうやったら、こうした状況を回避できるのか。それは不安や恐怖をむだに持たないこと。もう一つ、人というのはそんなに変わらないのです。こういう状況になったときに、僕たちは、例えばIS、あるいは北朝鮮、記号で見えまうのです。邪悪で凶暴な人たち、オウムと同じです。でも、実際に中に入れば、普通のおじさんです。普通のお兄ちゃんです。それはかつての日本もそうです。

普通のお兄ちゃん、おじさんが中国に行つて、何をやったか。村を襲つて、女性をレイプして、村に火をつけて、でも、帰ってきたら普通のおじさんなんです。その意識を持つこと。多分それによつて見方が変わると思います。

でも、なかなか一般の人は持てないのです。だから、本来これはメディアがやるべきことなんです。メディアがその機能を発揮できないのです。

もう一つ要因があつて、今日は割と年配の方も多いから、この話ができるのですが、テレビが特に大きく変わってしまった理由の一つはリモコンなんです。

何のことかわかりますか。つまり、昔はテレビのチャンネルを変えようと思つたら結構大変でした。特に冬の寒いとき、こたつから出て、テレビまで行つて、チャンネルを変えて、またこたつに戻つて、座つて、「ああ、変えなければよかった」と後悔するわけです。だから、昔は皆、チャンネルを変えるのは我慢したのです。

今はリモコンでしょう。あつという間に替えられてしまう。替えられてしまったら、テレビは視聴率は下がりますから、広告料も下がります。だから、替えられないために必死にあります。叫びます。

テレビというのは映像メディアのはずなんです、実はラジオより音のはるかにうるさいのです。テレビの絵を消して、音をラジオと聞き比べてみてください。テレビのほうがはるかにうるさいです。

ラジオはもう今、聴取率を取っていないです。もうそういう競争をしていませんから、語りかけるメディアになっています。

テレビはそうではない。とにかくもう見てくれ、聞いてくれ、その結果として、危ないです、こんなに不審者が増えました、こんなに中国は危ない、こんなに北朝鮮は怖い、テロが起きるかもしれない、そうした報道が続きます。

その結果として、人の意識は変わります。世界一安全な国のはずなのに、そんな実感は誰も持てなくなる。その結果として、皆んなが不審者に見えてくる。周辺他国もいつ何時日本に攻めてくるかわからない、そうした意識をみんなが持つてしまうようになっていくのです。

(つづく)

森 達也 (もり たつや)

ドキュメンタリーディレクター、ノンフィクション作家。明治大学特任教授。

著書

『「A」撮影日誌—オウム施設で過ごした13カ月』現代書館、『放送禁止歌』解放出版社、『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』晶文社、『「自分の子どもが殺されても同じことが言えるのか」と叫ぶ人に訊きたい：正義という共同幻想がもたらす本当の危機』ダイヤモンド社

こ
う
る
じ
っ
ぽ
う
響流十方

すこしも念仏にこころをかけ候わんをば、すすめたもうべし。これ弥陀如来の御みやづかえと、おぼしめすべく候なり。

〔鎌倉の二位の禪尼へ進する御返事〕

少しでもお念仏の教えに心に向けそうな人には、お念仏の教えをお勧めになつて下さい。こうしたことはすべて阿弥陀さまへの宮仕えであるとお思いになるべきでしょう。

「もう少しそちらで精進するように！」——阿弥陀さまへの宮仕え——

私事で恐縮ですが、新年早々一ヶ月ほど入院致しました。ご心配とご迷惑をおかけした皆様方に心からお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

平成二十九年の師走を迎えた頃からでしょうか、右目の調子が何となく思わしくなくように感じていました。十二月二十七日、大本山増上寺の伝宗伝戒道場での教誡を終えたので、身体全体に感じていた疲労を取ろうと休息をとっていたものの、いっこうに改善のきざしはなく、加えて、右目が見えにくくなっていることをはつきり自覚できるようになりました。そこで十二月三十日早朝、総合病院の眼科に向かいました。医師に診ていただいたものの原因は分からず、精密検査を受けるため、翌平成三十年一月四日の予約を入れてもらいました。

年末年始ということもあり、やるべき仕事は山積みでしたが、そのほとんどを家族に託して、ただ横になっているという情けない有様で過ごしました。それにもかかわらず、視野狭窄きょうさくはますます進み、右目の視野は九割方失われていました。加えて、強烈な頭痛と吐き気に襲われ、その症状は日を追うごとに増していきました。

一月四日、眼科の精密検査を受けても症状の原因が見出せなかったことから、急遽、脳のMRI検査を受けることとなり、その結果、脳下垂体に腫瘍が発見

されました。その腫瘍によって、視神経が圧迫されていることが判明し、直ちに脳神経外科に転科して、緊急入院の運びとなったのです。

その後、造影MRI検査、造影CT検査を経て、手術の日取りが十一日に決まりました。説明を経て、麻酔同意書、輸血（血漿分画製剤）同意書にもサインしました。手術の前日には、病状と手術の方法、合併症の危険性など、執刀医から丁寧な説明を受け、同意書にサインしました。その際、MRIとCTの画像を通じて目にした自分自身の脳は、脳下垂体の全体に腫瘍が広まり、それをはみ出して周囲の血管を覆い尽くしているという、目を覆いたくなるような見るも無残な状態でした。医師の所見は次の通りです。

診断名 トルコ鞍内腫瘍（下垂体腺腫の疑い）

手術 経蝶形骨洞的腫瘍摘出術

平成三十年一月十一日午前十時、手術は始まりました。内視鏡を右の鼻の穴から通し、幾枚もの膜をはがし、脳と鼻との間の骨を削って脳下垂体の腫瘍を取り除くという段取りです。私自身は全身麻酔を受けていたので何も覚えていませんが、都合六時間におよぶ手術だったそうです。

午後四時半過ぎ、私は目を覚ましました。全身麻酔の影響で意識はうつろで

したが、強烈な術後の痛みと身体中に広がるきしみのようなものを感じました。しかし、その瞬間、「右目が見える!」「生きていて良かった!」という喜びの思いが全身に込み上げてきました。

私自身、周囲には気丈に振る舞っていたものの、失明への恐怖、そして、生への執着を心底から拭い去ることなど到底できなかったのです。何とも情けない話です。手前味噌ですが、実はこうした弱い心こそ、これまで私が幾度となくお伝えしてきた凡夫の心であり、私達のありのままの姿であることをあらためて認識した次第です。そして、こんな情けない私をお救いくださる阿弥陀さまの救いの働きを何よりもありがたく感じることができました。

その後、夜ごと鼻血を繰り返すなど、不安な日々を過ごしましたが、実に多くの方々の支えによって、一月三十日、なんとか退院することができました。おかげさまで、取り出した腫瘍の病理検査も悪性ではないという結果でした。振り返れば、何もかも初めての、そして、何ものにも代え難い貴重な経験でした。本調子に戻るまでいささか時間がかかりそうですが、少しずつ職務に復帰しています。今、私は、阿弥陀さまから「もう少しそちらで精進するように!」と、ご下命を与えられた思いを強くしています。

合掌 (林田康順)

第三十二回

江戸の川 を歩く

荒川水系 隅田川

江戸ウォーカ―

森清鑑

家康の江戸造りと 川の付け替え(瀬替え)

家康が一五九〇年江戸に入府したとき、江戸湾に向かつて流れ込んでいた川は、平川、石神井川、荒川、利根川水系であった。彼は舌のように突き出た江戸前島(日本橋から新橋まで)の両端から埋立てを開始。浅瀬を陸地に変え、多くの人が住める都市建設を目指す。海を埋め立て、葦の生える湿地帯を平地に。複雑に流れ込む河川は、大洪水の温床。これでは、いくら埋め立てても元の本阿弥。そこで川の向きを変える「瀬替え」の大工事が始まる。同時に運河網を整備。運河網は現代の道路。瀬替えは、まず平川、石神井川から着手。日本橋川、神田川を造成し、荒川(隅田川)に付け替え。幾筋もの水系となつて江戸湾に流れ込む利根川の主流を房総、銚子方向へ瀬替え。確保した広大な平地に関東、北陸からの人々を迎え入れ、住まわしていく。

地形を変える大都市造り。家康は、歴史上初めてこの大構想を立て、実現していく。こうして、江戸は、世

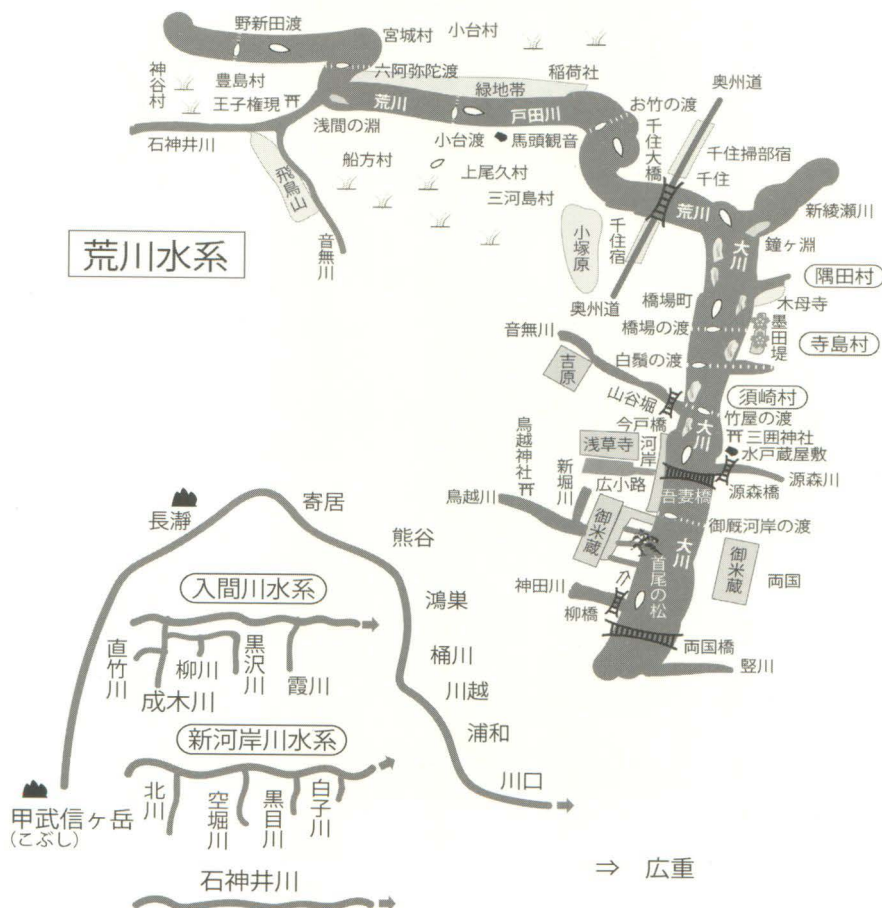
界最大級の人口百万都市に発展したのである。

荒川水系

江戸の中核、荒川水系。この暴れ川の整備は、最重要課題。結果、田畑に灌漑用水を引き込み、物資運搬の大運河と化す。周囲に江戸人口が集中。江戸っ子と云えば、隅田川。江戸文化の花が咲く。処の人々は、千住大橋から江戸湾に向かう辺りを隅田川(隅田村、角田村が由来)、浅草近辺を浅草川、駒形辺りを宮戸川、両国橋からは大川と呼ぶようになる。江戸古地図では、これらを実大川と表現している。今日では隅田川で統一。

ではこの水量豊富な荒川水系とは? 本流は秩父山地の甲武信ヶ岳が水源。大洞川、中津川、赤平川などを合わせ、秩父盆地を東へ。関東平野で市野川、入間川が流入。江戸に入ると新河岸川、石神井川(瀬替えの結果)、神田川(造成)が加わり、江戸湾に達する流路である。家康入府時、荒川は利根川に流れ込んでおり、大川の流れは実は利根川の支流と言えた。一六三〇年からの大工事で利根川本流に繋がっていた荒川を切り離し、江戸湾に落としたのである

荒川水系



⇒ 広重

舟に乗って江戸湾に向かう

それでは江戸に入ってから荒川を散歩してみよう。右岸は神谷村（塚原）の田圃。左岸は足立郡鹿浜村の緑地帯が広がっている。荒川は滔々^{とうとう}と流れ、橋は無く、野新田の渡しが生るのみ。まもなく右岸は神谷村から豊島村に代わり、ここは田圃が延々と広がっている。流れは蛇行し、右曲がり。そこにも六阿弥陀の渡し場がある。まもなく浅間の淵。美しい河川美。過ぎると、飛鳥山から瀬替えされた石神井川が蛇行しながら流れ込んでくる。ここで流れは東へと直進。処の人はそのまま荒川と呼ぶ。

右岸を観ると船方村から上尾久村へ。果てしない田圃が広がっている。各所で荒川の水を田圃に引く、灌漑流路が見られる。左の風景も緑地帯と田圃。まもなく尾久村と対岸の小台村を繋ぐ「小台の渡し」。

ここを過ぎると右に馬頭観音の社、左に稲荷社が見えてくる。江戸期、処の人々はこの辺りの荒川を戸田川と呼んだ。間もなく荒川は右に蛇行。曲がり口に尾久村と千住の田圃を繋ぐ「お竹の渡し場」がある。南

に下り、今度は左に緩やかに迂回。右には、三河島村の畑、左は千住の町並み。そして長さ六十六間の千住大橋が見えてくる。これは江戸で最初に架けられた橋である。

千住大橋

千住大橋には奥州道が通る。右手を見ると千住の宿場町。宿場がずらりと並んでおり、大層な賑わい。日本橋から出立した旅人は浅草を通過、日本堤の末端、音無川を渡り（新島越橋）北上。処刑される罪人と親族の最後の別れ、泪橋から小塚原へ。直ぐ左に道に面して刑場がある。すると間もなく小塚原町の家並み。そして千住宿で一泊目を取る。ここで日光道中が繋がるから、大賑わい。刑場が近いということもあり、宿場の周囲は寺が密集している。長い千住大橋を渡ると対岸は橋戸町の家並み。その先に千住掃部宿があり、旅人はここにも泊まる。一里塚と高札が立ち、賑やかな千住の家並みが続いている。

鐘淵

荒川は再び右に急展開。曲がり角、左から新綾瀬川が合流（瀬替えの結果）。この辺り、風光明媚な、正に水の都の感。池波正太郎「剣客商売」の主人公、秋山小兵衛の住まい。女房のお春がしょっちゅう船を漕ぐ処である。鐘淵を過ぎると左側は隅田村。通常、江戸っ子は、この先を大川と呼んだが、隅田川という名称由来の村である。ここから桜で有名な隅田堤が始まる。そして右側を見ると橋場町の田や畑が広がっている。

吾妻橋へ向かう

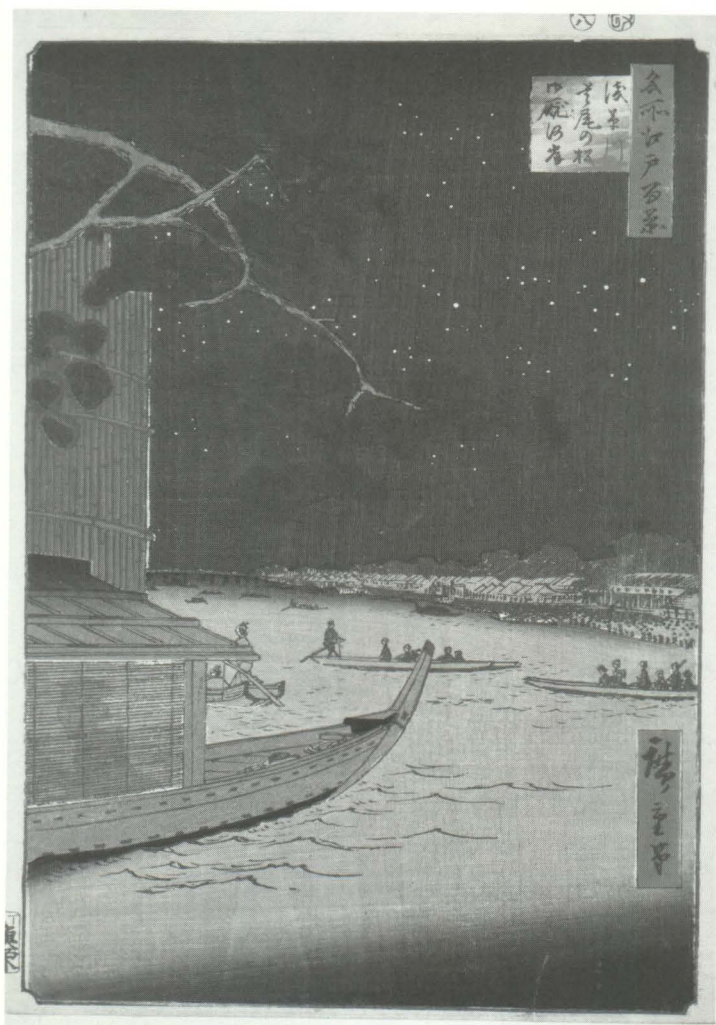
まもなく左に桜で有名な広い木母寺の境内。大川の右寄りには細長い州があり、葦が生え、都鳥が飛び交っている。ちょっと行くと、州は隅田村寄りに多くなる。そして隅田村から寺島村に代わる。ここで右側を見ると、橋場町の田圃が消え、民家の屋根が連なっている。そして橋場の渡し場。将軍家の船着き場「御上がり場」と川船番所を過ぎると家屋はますます密集。浅草橋場

町。その背後には、寺が密集している寺町が。この辺りから大川の川幅は一段と広がり、中央に州が見える。そして「白髭の渡し」に。寺島村の方に渡ると隅田堤の桜が連綿と続き、向島七福神の「白髭神社」や花屋敷（向島百花園）。さらに江戸湾に向かう。州は、今度は大川の右寄りに多くなり、右岸は浅草今戸町。そして飛鳥山の右側を流れ下る音無川が田園の広大な四角形、新吉原の脇を通り、日本堤沿いに下り、山谷堀で大川に流れ込む。今戸町は江戸の人口密集地帯。高い山に神社の屋根が広がっている。これが待乳山聖天社。舟人にとっては、格好の目印。その背後は、歌舞伎小屋が並ぶ、浅草寺領猿若町の賑わい。

荷揚げ河岸が続く

—今戸から御米蔵まで

ここから河口に向かって荷の積み卸しをする、河岸が連綿と続く。川越から積まれた荷は新河岸川を通り大川に出て河岸の一つ、花川戸河岸で荷揚げ。山谷堀の大川出口、奥州道に架かる橋が有名な今戸橋。ここから対岸に渡る舟が「竹屋の渡し」で、対岸は小梅村、



◆広重絵：浅草川首尾の松御殿河岸：大川の情景を良く伝えている。松の下に泊めてある屋形船から対岸を見る。

三囲稲荷（三囲神社）。日本橋越後屋（三越）が深く
帰依した稲荷様である。その上に牛御前最勝寺、弘福
寺、長命寺がある。こちら側は対岸の今戸側と打って
変わって自然豊かな、言わば別荘地帯の趣。心胆を鍛
えるため若き日の勝海舟は、夜な夜な、本所から一人
牛御前に来て明け方まで素振りと瞑想に暮れる。途中
誰一人として会わず、風にそよぐ寺の木々の葉音に身
震いしたという。三囲稲荷からちよつと南に下ると、
二十三万坪の徳川水戸中納言の蔵屋敷が広がる。蔵屋
敷とは大名の荷揚げ屋敷で大抵、河岸の近くにある。
この蔵屋敷の南側に源森川が大川から引き込みで流れ
ている（北十間川）。源森橋は大川沿いにあり、渡る
と松平越前守（アサヒビル、墨田区役所）、続いて
熊本細川能登守の下屋敷、辺りは旗本御家人屋敷に代
わる。細川下屋敷の真ん前に長さ七十六間の吾妻橋が
架かっている。橋を渡ると、岸の左右は連綿と河岸。
直進すると広小路に出る。広小路の右側一帯は全て浅
草寺領で、右を見ると風雷神門（雷門）があり、今と
異なり、門を潜ると左右は全て浅草寺の子院で固めら
れている（仲見世）。

吾妻橋から河岸沿いに下ると、右手に駒形堂が見え、
その裏一帯は、浅草並木町の家宅が密集。そして「御
厩河岸之渡し」があり（厩橋）、幕府の御米蔵。河岸は、
今戸からここまで続いているわけである。長い河岸の
前は殺生禁断となっており、釣りが禁止されている。
これは、荷舟の往来が激しいので事故を防ぐ処置と思
われる。

幕府御米蔵（蔵前）

各所から集められた米が全て収納されるのが、御米
蔵。大川に大堤防が突き出、その上に蔵が建ち並ぶ。
そこに八つの入り堀が定間隔で間に入り、上から見
ると全体は櫛状（蔵前一（二丁目）。四番堀と五番堀の
間に松の太木が大川にせり出ている。これが「首尾の
松」。名の由来は、幾つかある。家光の面前で家臣が
大川を渡りきる。彼は首尾良く褒美を貰う。舟で吉原
へ行く通人が松の下で首尾作戦を練る。そして首尾良
く逢い引きの場所。海苔栽培の仕掛け、「ひび」がなまっ
て首尾になったという説もある。広重は人目を避ける、
葦簀張りに女性のシルエットで逢い引き舟の夜景を描

いている。

鳥越川

御米蔵の七番堀辺りに鳥越川が流れ込んでいる。この川は家康以前には、浅草の西にあった巨大な千束池（不忍池の数倍）から流れていた（千束町）。池は消滅。その後、上野不忍池から忍川を経て、大名屋敷を囲み、北からの小川、新堀川を合わせて大川への流れに。鳥越神社は、江戸大祭のひとつで、「鳥越の夜祭り」として有名。千貫御輿を担ぐため、荒っぽくなり江戸の喧嘩祭りとも。川の畔にある、神社の歴史は古く、六五一年に遡る。平安末期、奥州征伐で源頼義、義家一

行が、大川の前で立ち往生。困り果てると白鳥が浅瀬を飛び渡り、先導してくれ、渡れた。そこで鳥越大明神の社号を奉る。社は小高い鳥越山の上に建っており、寺領は二万坪も在ったが、一六二〇年山を切り崩して御米蔵を建設したものである。

この御米蔵の北端に「御厩河岸の渡し場」がある（厩橋）。舟で対岸の両国に渡ると、ここにも広大な御米蔵、通称「御竹蔵」（両国国技館、江戸東京博物館）があった。

まもなく、掘削された神田川が柳橋を潜って大川へ流れ込む。その下方に長さ九十六間の両国橋が架けられたのである。

古き伝統技 三代にわたる信頼

有限
会社

浄土宗法衣専門

古島法衣店

〒111 東京都台東区元浅草4の2の1
電話（03）38421289
振替 0018002145231

小説 快僧渡辺海旭

壺中に月を求めて

前田和男

第八十九回

第三部

充実と稔りの白秋へ

仏教界の体たらくを撃った徳富蘆花の「謀叛論」



大逆事件から治安維持法改悪へ

十余年ぶりに帰国したとたん、渡辺海旭は、いきなり歴史的な大事件に襲われた。世に言う「大逆事件」である。わけても海旭が衝撃を受けたのは、容疑者の中に多くの僧侶がふくまれていたことである。「仏教者が天皇暗殺を企てるはずがない、どこかおかしい」という疑念が海旭の脳裏から離れなかったが、図らずもそれは「大逆事件」の「不都合な真実」を突いていた。

前回、皮肉にもそのことをフレームアップした側が「自白」しているとして、当時大審院検事局を率いて捜査から判決・処刑までを指揮した平沼騏一郎の『回顧録』（平沼騏一郎回顧録編纂委員会、一九五五）からその証拠をいくつか紹介したが、紙幅が尽きたために先送りした極め付けの「とんでも証言」を、ここで追記しておきたい。

それは、平沼が「首魁」となって捏造した

歴史的な事案について、彼なりの「総括」をしている以下のくだりである。

「私はあの事件で考へた。どうしても教育が大切である。幸徳は漢学が出来、国学が出来、仏蘭西語、英語が出来た。漢学丈けで終つてゐたら、あ、云ふ事もなかつたであらう」（同書六十二―六十三頁）

なまじ西欧の言葉ができて西欧の知識を身につけたがために、幸徳秋水は「凶事」に及んだというのである。なんたる「浅薄かつお粗末な総括」だと一笑に付すのは簡単だが、その後この「浅薄かつお粗末な総括」から始まる「歴史の捏造」は実に恐ろしいものがある。

これに味をしめた平沼が検察のドンとして次にめざしたのは、昭和三年の治安維持法の「改悪」であった。これにより、「結社」の構成員であることが証明できなくとも「国体変革を為す行為」とみなされれば、最高刑で死刑に処することができるようになった。そし

て、共產主義者だけでなく自由主義者までを次から次へと「不穏分子」として摘発排除、おそらくその「論功行賞」として、平沼は第三十五代内閣総理大臣に就任するのである。さらに戦後はA級戦犯として巣鴨プリズンにつながれるも「無罪放免」となり、その「国体護持思想」は息子（甥を養子に）の平沼赴夫にしつかりと継承され、治安維持法の再来といわれる「共謀罪」を成立させたことを思うと、背筋が寒くなると共に、ますます大逆事件の歴史的意味が今に迫ってくる。

僧侶三人が連座

いや、読者諸賢には失礼をした。「私憤」が高じて先へ飛びすぎたようだ。ここは心を落ち着かせて、歴史時計の針を事件が起きた往時に戻して、海旭の心の深奥へと踏み入ってみよう。

海旭にとって無念でならなかったのは、海旭が抱いた三人の僧の動機への疑念が、世間

では、彼らの理解と同情へと向かうのではなく、逆に彼らを「好奇の対象」にさらしていることだった。それは、同じ仏教者としては、なんとも耐えがたく、海旭の心をいたく傷つけた。

新聞は、世間の俗なる感情に乗って、次のような調子でそれをさらに煽りたてていたのである。

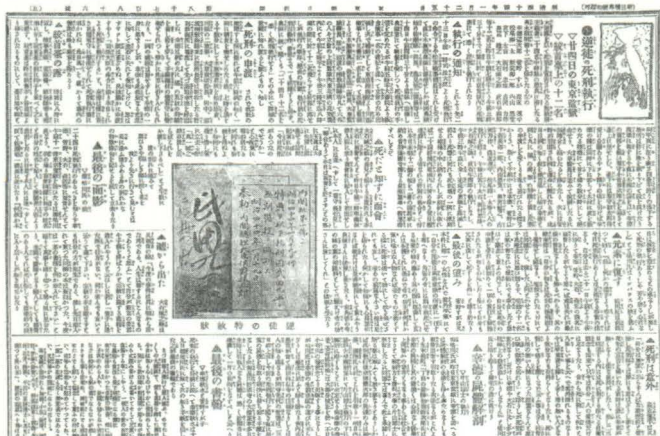
「苟^かにも無政府主義者など云ふ名の附く以上は多少其方面の知識もあり思想も出来て居るには相違なかるうが、第一の有力なる動機が自己のパンの問題に基いてである事は争はれぬ。（中略）聞く所に依れば二十六人の犯罪者の中に僧侶が三人も居るそう、之とて仏教の思想から起こった事ではない、何れ僧侶では思ふ通りの事も出来ぬからと云うので飛^{とん}でもない方に迷い込んだらしい」（『読売新聞』「無政府主義雑話」明治四十三年十一月十九日朝刊）

幸徳秋水たちは、いちおうは信念に基づく

「主義者」であるが、本音はパンがほしいだけの食い詰めものである。さらに、三人の僧侶ときたら、もはや「主義者」ですらない、「仏の教えからではなく、思いつきでやっただけ」とこき下ろされている。明治維新で地におちた仏教の評価がまだ変わっていないことを海旭は痛感させられて、無念でならなかった。その「無念」をいつそう募らせたのが、そういうした俗悪な世論に宗教界の中樞が乗るかたちで、三人の僧に対処したことであった。内山愚童の曹洞宗も、高木顕明の浄土真宗大谷派も、峰尾節堂の臨済宗妙心寺派も、世間と国家権力に忖度して、それぞれ「宗内擯斥」として三人の僧籍を剥奪、所属教団から永久追放したのである。

彼らの「宗内擯斥」は事件が冤罪であったことが判明してからもつづき、それぞれの宗門が処分を取り消し、ようやく「名誉回復」がなったのは、内山愚童が平成五年五月、高木顕明が平成八年四月、峰尾節堂が平成八年

九月のことであった。なんと事件から八十年以上が経過していた。



幸徳秋水らの処刑を報じる、明治44年1月25日付け「東京朝日新聞」

徳富蘆花の「謀叛論」の衝撃

翌明治四十四年一月十八日、平沼騏一郎の指揮のもとで起訴された二十四名に死刑判決が下されると、国内外の嘆願運動をあざわらうかのように、わずか六日後の二十四日に幸徳秋水以下男十一名が、翌二十五日に唯一の女性であった管野須賀子が絞首台に送られ、残り十二人は無期懲役に「減刑」されて獄の奥深くにつながれたのである。

これについて、関連した宗門各派の中樞は、抗議はもちろんのこと、助命嘆願や遺憾の表明すらもしなかったが、この態度に満腔の怒りをぶつけた人物がいた。処刑から一週間後の二月一日、第一高等学校（現・東京大学教養学部）の弁論部大会に講演を依頼された徳富蘆花である。そこで蘆花は「謀叛論」と題してこう語ったのである。

「ただ音に政府ばかりでない、議會をはじめ誰も彼もみな大逆の名に恐れをして一人として聖

明のために弊事（へいじ）を除かんとする者もない。出家僧侶、宗教家などには、一人位は逆徒の命乞（こい）する者があつて宜いではないか。しかるに管下の末寺から逆徒が出たといつては、大狼狽（おうれう）で破門したり僧籍を剥いだり、恐れ入り奉るとは上書しても、御慈悲と一句書いたものがないとは、何という情ないことか。幸徳らの死に関しては、我々五千万人（ひと）齊しくその責を負わねばならぬ。しかしもつとも責むべきは当局者である。（略）死の判決で国民を嚇（おど）して、十二名の恩赦でちよつと機嫌を取つて、余の十二名はほとんど不意打の死刑——否、死刑ではない——暗殺である」（徳富健次郎／中野好夫編『謀叛論他六編・日記』岩波文庫、十九、二十頁）

後にこの蘆花の「謀叛論」を聞き及んだ海旭は、その激越かつ勇氣ある弁論に大いに感銘すると共に、仏教界の末席につらなる身として大いに恥じittaのだった。

（つづく）

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

浄土宗総本山知恩院門跡
浄土門主

伊藤唯眞

大本山
法主 増上寺

八木季生

大本山くろ谷金戒光明寺
法主

高橋弘次

大本山
法主 百萬遍知恩寺

福原隆善

〒606-8225
京都市左京区田中門前町一〇三

大本山清浄華院
法主

真野龍海

大本山善導寺
法主

阿川文正

大本山光明寺
法主

柴田哲彦

鎌倉市材木座六・十七・十九
TEL 〇四六七 (一一) 〇六〇三

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

〒380-0851長野市元善町五〇〇

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

浄土宗宗務総長

豊岡 鏖 尔

法然上人御誕生地
浄土宗特別寺院

美作 誕生寺

〒709 362 岡山県久米郡久米南町里方八〇八
TEL 〇八六 (七二八) 二二〇二
FAX 〇八六 (七二八) 二二六二

(学)大乘淑徳学園
理事長

長谷川 匡 俊

〒174 8645 東京都板橋区前野町五・五・二

学校法人 淑徳学園
淑徳S.C.中等部高等部

理事長
校長 麻生 諦 善

白本尊阿弥陀如来・
家康公念持佛

静岡 宝台院

住職 野上智徳

赤坂六地藏尊

浄土寺

住職 阿川正貫

〒107 0052 東京都港区赤坂四・三・五

鶏頭山安楽寺

飯田 實 雄

〒399 4115 駒ヶ根市上穂栄町九・五
電話 〇二六五 (八三) 二二六〇

清水湊

忠高山 實相寺

〒112 0002 東京都文京区

小石川三丁目十四番六号

無量山 傳通院

電話 〇三 (三八一四) 三七〇一 (代表)

家康公祖母菩提所

玉桂山 華陽院

住職 堀田卓文

勝願寺

〒365 0038 埼玉県鴻巣市本町八・二・三一
電話 〇四八 (五四一) 〇二二七

お骨仏の寺

一心寺

〒543 0062 大阪市天王寺区逢阪二・八・六九
電話 〇六 (六七七) 〇四四四

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

九品阿彌陀如来

淨眞寺

〒158-0003 世田谷区奥沢七・四一・三
住職 清水英碩

宮城県仙台市

定義^{じようぎ}如来 西方寺

住職 大江田 紘義
前住職 大江田 博導

岩淵

天王山 正光寺

〒115-0041 東京都北区岩淵町三十二・十一

無縁寺

回向院

〒130-0026 東京都墨田区両国一・八・十
電話〇三(二三三四)七七七六

投込寺 淨閑寺

戸松秀明

〒116-0003 荒川区南千住二・一・一二

古今伝授の寺

天主君山 願成寺

住職 魚尾孝久
〒411-0022 静岡県三島市川原ヶ谷十八
メールマガジン info@ganjou.com

塩竈市 雲上寺

東海林良雲

五劫山

愚鈍院

〒984-0051 仙台市若林区新寺三・十二・十七

寿福山 寛慶寺

水科善隆

〒380-0852 長野県長野市東之門町四〇六番地
電話〇二六(二三三三)一八一二

大吉寺住職

成田昌憲

〒154-0017 世田谷区世田谷四・七・九

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区南青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>



「のらくろ寺」・「のらくろ和尚」
住職 飯島英徳

北海道室蘭市
満岡寺・善行寺
(0143)22・4677・44・2695

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年

浄土宗東京教区
教区長

高橋誠実

無量寺
〒158-0097 世田谷区用賀四・二十・一

浄土宗東京教区教化団団長
浄心寺住職

佐藤雅彦

〒113-0023 文京区向丘二・一七・四

浄土宗東京教区教区議会
議長

村山好信

良信院
〒135-0022 江東区三好三・七・五

鎌倉大仏殿

高德院

〒248-0016 鎌倉市長谷四・一・二八
電話 ○四六七 (二三) 〇七〇三
FAX ○四六七 (二三) 五〇五一

十八檀林雪場会
吞龍上人縁日 (毎月八日)

蓮馨寺

住職 糸原恒久

〒350-0066 川越市連雀町七・一
電話 ○四九 (二三) 〇〇四三
FAX ○四九 (二三) 〇六七六

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四・一二・八

願行寺

佐藤成順

〒140-0004 品川区南品川二・一・一二

森巖寺

加藤昌康

〒155-0032 世田谷区代沢三・二七・一

152

かい目

さっちゃんねネッ かまち♡ふろう



昨年末、大室了庵理事長ご遷化により、この度の総会にて加藤昌康師が理事長に就任し、今号より編集人となりました。

編集後記

梅雨明けは待ち遠しくもあるなしか 岱潤

先日の葬儀の時、声を上げて哭いているご遺族の姿があった。何か久しぶりに接する姿に、こちらも声を詰まらせてしまった。最近日本人は泣かなくなったという。まして公の席で、声を上げて泣き崩れる姿は見なくなった。

柳田國男も『涕泣史談』の中で、「以前は一人前の大人は泣くべき時や泣くべき場所をわきまえていて、そういう時にきちんと泣けることが社会人として認められる要件でしたが、最近周囲を見回しても日本人が泣いている光景に出くわすことがめっきり減った」と書いています。

泣くことは恥ずかしいことでも、みつともないことでもない、親の死に涙することとは、すばらしい姿だと言える。何の本だったか、「人は涙でしか心を洗うことは出来ない」という言葉がずっと心に残っている。泣くという漢字もたくさんあり、すすり泣くから、大声で泣くまで、中国の人は細かく区別していた。ちなみに「哭く」は、人の死を悼むとき限定で、「卒哭忌」に使われている。五木寛之も、『デラシネの時代』の中で、「ユーモアだけが人の生を活性化させるのではない、泣くことや悲しみといったセンチメントもまた人間の生命を活性化させるのです。」と書いています。

最近「健康」や「笑い」がいいものとされ、「病い」や「泣くこと」がいらぬものとされているが、実は人生には両方がなくてはならないものなのではないかと、気がつくべきでしょう。(長)

編集チーフ
編集スタッフ

長谷川岱潤
斎藤晃道
佐山哲郎
青木照憲
村田洋一

浄土

八十四巻七・八月号 頒価六百円
昭和十年五月二十日第三種郵便物認可
年費六千円

印刷 平成三十年六月二十日
発行 平成三十年七月一日

発行人 佐藤良純
編集人 加藤昌康

印刷所 株式会社 晩印刷

〒一〇五・〇〇一一

東京都港区芝公園四丁目四明照会館四階

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三五七八)六九四七

FAX 〇三(三五七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇・八・八二八七

雑誌『浄土』 特別・維持・賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)
巖谷勝正(目黒・祐天寺)
魚尾孝久(三島・願成寺)
大江田博導(仙台・西方寺)
加藤昌康(下北沢・森巖寺)
桑原恒久(川越・蓮馨寺)
桑原勇慈(甲府・瑞泉寺)
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)
佐藤成順(品川・願行寺)
佐藤良純(小石川・光園寺)
東海林良雲(塩釜・雲上寺)
須藤隆仙(函館・称名寺)
高口恭典(大阪・一心寺)
中島真成(青山・梅窓院)
中村康雅(清水・実相寺)
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)
成田昌憲(世田谷・大吉寺)
野上智徳(静岡・宝台院)
藤田得三(鴻巣・勝願寺)
堀田卓文(静岡・華陽院)
本多義敬(両国・回向院)
松濤泰彦(芝・寶松院)
真野龍海(大本山清浄華院)
水科善隆(長野・寛慶寺)

(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp/>
メールアドレス hounen@jodo.ne.jp

写経と写詠歌セットのご案内

特徴① 奉書の手本に筆ペンで直接なぞる

特徴② 法事や行事の待ち時間で写せるA4判

特徴③ 手本は当会オリジナル

特徴④ 「写経セット」は浄土宗日常勤行式。

特徴⑤ 「写詠歌セット」は宗歌と四季の和歌。



従来の写経と異なる薄墨をなぞる写経と写詠歌のセットです。扱いやすいA4版で筆ペンで写せます。手軽にかつ短時間でできる新しいタイプの写経、写詠歌ですが、高級奉書を使用していますので、墨と毛筆でも写せます。法事や各種行事、詠唱会の待ち時間に、朝夕のお参りの前後に、新たな写経・写詠歌行事にご利用下さい。

申込日 年 月 日

御名前 電話 ()

御住所 〒

《御寺院欄》 教区 組 寺・院 寺院番号

①写経セット 価額:12,000円(税込) 関東・関西 セット
(1組12枚、10組入り) ※寺院名 () を入れる・入れない

※関東版(三奉請)、関西版(四奉請)に丸をおつけ下さい。

②写詠歌セット 定価:10,000円(税込) セット
(1組5枚、20組入り)

※写経セットの寺院名入れは無料です。ご希望の場合は寺院名をお書き下さい。

※消費税と送料は価額に含んでいます。商品お届け時の請求書にてお支払い下さい。

※ご注文をいただいてからお届けまで3週間ほどかかりますので、ご了承下さい。

※1組からご注文ご希望の方はFAXにて当会にご相談下さい。

《本頁をコピーの上、注文を記入して、法然上人鑽仰会へ
Fax (03-3578-7036)、メール (hounen@jodo.ne.jp)、または
郵送(〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館4階)下さい》

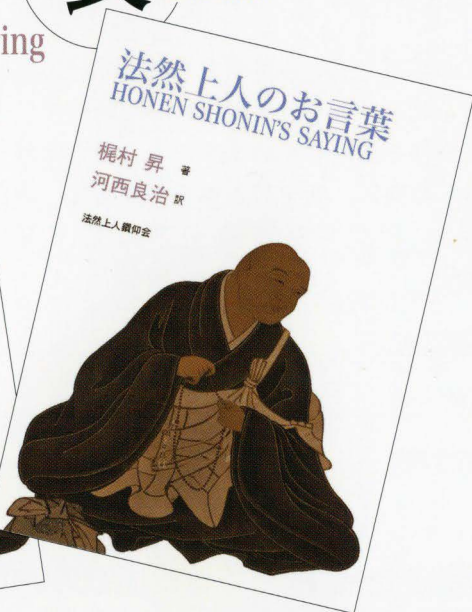
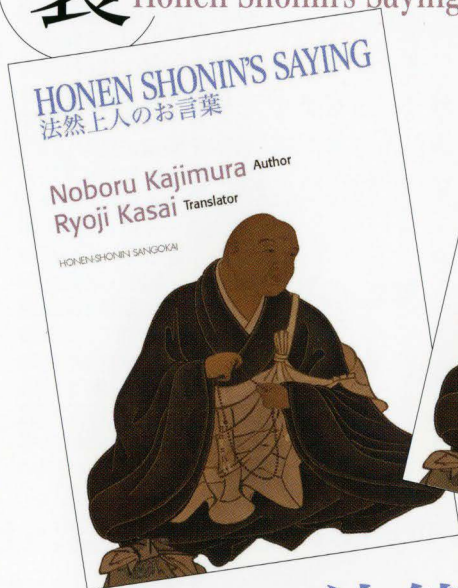
月刊浄土の連載が 単行本になりました。

裏

左開きで英文の
Honen Shonin's Saying

表

右開きで和文の
ご法語



和英対応法然上人のお言葉

梶村 昇・著 河西良治・訳

ご法語と解説が和文と英文で一冊になりました。

外国の方のお土産にも最適です。

A5判・124ページ 頒価 1,000円(税別)

法然上人讃仰会だから
こそ作れる
オリジナル単行本です。

法然上人讃仰会 FAX : 03-3578-7036

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4明照会館4階

※お問い合わせは、Fax またはメール

hounen@jodo.ne.jp へお願いします。